

Ⅵ. 立教チームとしてのボランティア活動参加〈動く：参加〉

1. 立教チームで活動する1dayボランティア

(1) 「東京都障害者スポーツ大会（主催：東京都、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会）」

大会概要	都内最大規模の障害者スポーツ大会である「東京都障害者スポーツ大会」は、「東京都身体障害者スポーツ大会（昭和26年～）」と「東京都知的障害者スポーツ大会（昭和59年～）」を統合したもので、平成12年から開催されている。全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねており、2023年度は鹿児島県で開催される特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」につながる。
活動目的	(1) 「立教大学チーム」としてボランティア参加する機会を設けることで、より多くの学生がボランティア活動への参加の一步を踏み出せるようにすること。 (2) スポーツボランティア活動を通して、「障害者スポーツ」の実態やしょうがいのある競技者へのサポートについて実践的に学ぶこと。 (3) 大会の成功に貢献すること。

① 水泳競技（知的・身体）

活動日	2023年5月20日（土）8：30-17：00
場所	東京アクアティクスセンター
参加者	学生：11名／ボランティアコーディネーター：1名
役割	招集・誘導、荷物運搬、計時員

立教チームのメンバーは、競技を控えた選手を決められた時間に、決められた場所に招集したうえで、スタートするレーン番号順に整列できるようにサポートする「招集・誘導」、競技のスタート地点で回収される選手が荷物（指定のカゴの中に入れられる）を持って、競技中に荷物置き場へ移動させる「荷物運搬」、レーンごとに選手の競技記録（タイム）を計測する「計時員」の役割を担当し、選手や競技運営のサポートを行った。

■ 参加した学生の振り返りから（原文ママ）

- 初めてボランティアに参加して新たな視点で水泳大会を見ることができた。大会後にメダルを取って喜ぶ選手を見て、自分が関わったと思うと嬉しくなった。
〈社会学部 社会学科 1年〉
- 学生だけでなく、企業の方など様々な方がボランティアとして大会運営に携わっていた。学生という立場ではなく大会運営に携わる競技補助員の一員として動き、互いにサポートし合うことでスムーズに運営することができているのだと感じた。
〈現代心理学部 心理学科 2年〉
- 大学生から企業の方まで様々な人の手によって大会が支えられていることを実感した。また、自分のなかに偏見があることを知った。これまで私はしょうがい者に対して優しい声掛けをすべきだと思っていたが、コーチが選手に対して健常者と同じように注意を呼びかけている光景を見て、潜在的に健常者としょうがい者で線引きをしていたことに気がつくことができた。
〈社会学部 メディア社会学科 3年〉
- 大会で重要なことは安全に終わらせることと、選手が自分のパフォーマンスを出せるようにすることであると思うので、それを考えたときにどのように行動すれば良いか活動をしながら考えるようになった。
〈コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科 4年〉



当日の様子をボラセン公式noteで公開中！
右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。



② 陸上競技 (知的／身体・精神)

活動日	2023年5月27日(土)、28日(日)、6月3日(土) ※いずれも8:30-17:00		
場所	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場		
参加者	学生:14名/ボランティアコーディネーター:1名		
役割	5/27(土) 知的部門	5/28(日) 知的部門	6/3(土) 身体・精神部門
	-開会式 旗手 -ハガー※1 -表彰	-競技者の招集・誘導 -出発	-競技者の招集・誘導 -競技補助員 (ソフトボール投げ)

※1「ハガー」…走競技の際にゴール付近でゴール後の競技者を受け止め、表彰場所までの誘導を行う。ゴールしたことに気付かない競技者がいると他の競技者と接触し互いに怪我をするため、それらを未然に防ぐ知的部門ならではの役割。

■ 知的部門：5月27日(土)、28日(日)

1日目は、大半の学生がハガーを担当し、知的部門でしか体験できないボランティアの関わりを経験した。その他、競技者の表彰エリアで活動したり、開会式の旗手を担当したりした。

2日目は、選手の招集・誘導や出発を担当。出発係となった学生たちは、走競技の出発地点で競技者一人ひとりに寄り添い、適切にスタートを切れるようにサポートした。

■ 身体・精神部門：6月3日(土)

競技者の招集・誘導と競技補助員を担当。競技者の招集・誘導を担当した学生たちは、陸上競技場内での競技運営をサポートし、競技補助員となった学生たちは、補助競技場で行われた「ソフトボール投げ」の競技運営をサポートした。

■ 参加した学生の振り返りから (原文ママ)

- 今まで知的しょうがいの方と関わる機会が無く、わからないことが多い、または間接的に得た情報しか持っておらず少し怖いイメージを抱いていた。しかし今回、ハガーの役割を通して知的しょうがいの方との会話を通して怖さがなくなった。声を掛けたら笑顔で受け答えをしてくれて、嬉しい場面が何度かあった。
(観光学部 交流文化学科 2年)
- 知的しょうがいのある方と一対一で接するのは初めてで、どのようにコミュニケーションを取れば良いのか手探りの状態でした。私は、招集を受けた選手をそれぞれの待機場所まで誘導する、という役割で、初めは「こんな感じでいいのかな」と不安がありました。しかし一緒に活動するボランティアやスタッフの方の姿を見ながら、ハキハキと声を出したり、身振りを大きく使って誘導する場所を明確に示したりと、自信をもてるようになっていきました。
また、誘導した際、選手に「ありがとうございます」という言葉をかけてもらい、嬉しい気持ちと、さらに選手たちが活躍できる環境を支えたいという気持ちになりました。しょうがいのある方々がスポーツを楽しみ、活躍する姿を見て、ほんの一步当事者の方々の理解に繋がったと思います。
(文学部 史学科 3年)

- それぞれの選手が抱えているしょうがいを理解してそれにあったサポートをする難しさを知りました。選手が補聴器や義手、義足、車いすを使用しているので、どこにしょうがいを抱えているかはすぐに分かったのですが、僕が普段感じている感覚とは全く違うため、どのような不便さがあるのかは分かりませんでした。
例えば、電動車いすを使用している選手を招集場所や競技場所に誘導する時に、左右どちらに曲がるかを早めに教えてほしいと指摘され、自分がどちらか言えば選手はすぐに曲がれると思いついでいることに気づかされました。

(コミュニティ福祉学部 福祉学科 1年)



当日の様子をボラセン公式noteで公開中！
右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。



③ スポーツの集い (知的)

活動日	2023年9月13日 (水) 8:30-17:00
場 所	東京体育館 メインアリーナ
参加者	学生:14名/ボランティアコーディネーター:1名
役 割	編成誘導係、フロアー係

昭和42年から続く「スポーツの集い」は、参加者がご家族や仲間、介助者の方たちと一緒に、明るく元気にスポーツに挑戦し、楽しむことができる大会として開催されている。今回立教生は、「編成誘導係」「フロアー係」を担当した。

「編成誘導係」は、プラカードをもって各種目の出場選手を招集場所で編成、その後、競技開始場所まで誘導する。学生たちは、どのタイミングで選手を招集すれば良いのか、自分たちがどの場所に歩いていけばいいのかなど、不安に感じるが多かったようだが、他のボランティアの方々と情報共有し、協力し合いながら活動していた。

「フロアー係」は、主に競技サポートや競技中の安全確保、退場誘導などを行った。競技によってサポート方法や関わり方は異なるが、「100m競争」「30m競争」「リレー」などの走競技では、コース上に立ってコースアウトや接触がないように見守ったり、出発場所までの誘導や仕切り直し時の補助をしたりした。

■ 参加した学生の振り返りから (原文ママ)

- ボランティアと言うと何か役に立つことをしなければならなかったと思っていました。しかし、参加者の皆様と競技に参加して、その場にいる全員が笑顔になっていたことに気づき、一緒に楽しむこと、共に時間を過ごすこともボランティアの一部だということ学びました。これは実際に体験したからこそ気づけたと思います。
(経営学部 国際経営学科 1年)
- ボランティアの人とそのサポートを受ける人はあくまでサポートをする、されるという関係、というイメージが強かったので、「一緒に」楽しんで活動できるという点で捉え方が変わりました。
(コミュニティ福祉学部 福祉学科 1年)
- 本当に楽しかったし、これからも時間のある時にボランティアしてみようと思いました。これまでアルバイトやインターンなど、有償のものばかりやっていたこともあり、何事にも優劣をつけられるものだと思っていました。今回、ボランティアは自分の体や気遣いだけでヒトの心に触れ、こんなにも喜んでもらえるんだなと気づかされました。
(法学部 法学科 4年)



当日の様子をボラセン公式noteで公開中！
右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。



(2) 「第8回 大江戸新座祭り (主催:一般社団法人 新座快適みらい都市会議、大江戸新座祭り協議会・実行委員会事務局)」

① 事前説明会

実施日時	2023年7月4日 (火) 12:35-13:15
場 所	新座キャンパス N238教室 (一部、オンライン)
内 容	(1) 顔合わせ (2) 活動内容や当日の動きについての説明
講 師	大江戸新座祭り実行委員:4名
参加者	学生:24名/ボラセンスタッフ (Co.含む):2名

② 「大江戸新座祭り」当日

活動日時	2023年7月16日（日）9：30-17：00
場 所	ふるさと新座館 及びその周辺
実施目的	(1) 「立教大学チーム」としてボランティア参加する機会を設けることで、より多くの学生がボランティア活動への参加の一步を踏み出せるようにすること。 (2) ボランティア活動を通して、新座市の方々やその地域性・特色に触れ、市民活動がもつ価値や地域の課題について実践的に学ぶこと。 (3) 祭りの成功に貢献すること。
活動内容	射的の屋台運営、抽選会運営、放送（会場アナウンス）、本部運営、阿波踊りの進行サポート
参加者	学生：24名／ボランティアコーディネーター：1名

■ 「大江戸新座祭り」について

志木駅南口から新座中央通りで開催されていた『新座阿波踊り』が2014年に32年の歴史に幕を下ろしたことをきっかけに、「新座市の夏の風物詩となっていた新座阿波踊りがなくなってしまうのはもったいない」「形を変えて新たに阿波踊りができる場をつくろう」「何とか阿波踊りを続けさせてもらいたい!そして新座市を盛り上げていこう!」という想いから『大江戸新座祭り』が誕生した。

現在は、市民有志が中心となって実行委員会を組織し、事前の準備から立案、当日の運営を行うなど、市民の力によって開催されている。

■ 当日の様子

立教チームの学生は、時間によって役割を入れ替えながら活動した。

大江戸新座祭り実行委員会の「射的屋台」では、主にお金の管理や受付などを地域の方々が担い、的の管理をしたり、弾（コルク）を渡したり、景品を交換したりする役割を学生たちが担当した。

小学生以下の子どもが対象の「抽選会ブース」は、無料で参加できることもあり、開始時間前から行列ができるほどの大盛況。立教生は、列整理や抽選会の台紙となるパンフレットの配布、花火や鉛筆、缶バッジなどの景品受け渡しなどを行った。その他、会場アナウンスや本部の運営、阿波踊りの進行サポートなど、会場内の様々な場所で活動し、お祭りの安全確保や盛り上げに貢献した。



当日の様子をボラセン公式noteで公開中！

右の二次元バーコードを読み取り、記事をご覧ください。



(3) 「さいたまマラソン（主催：さいたま市、一般社団法人さいたまスポーツコミッション、一般財団法人埼玉陸上競技協会）」

① 事前説明会

実施日時	2024年1月10日（水）17：30-18：30
場 所	新座キャンパス N423教室
内 容	(1) 顔合わせ（アイスブレイク） (2) 当日使用物品等の配付 (3) 活動内容や当日の動きについての説明
講 師	さいたま市役所 担当職員：1名
参加者	学生：18名（申込者：21名）／ボラセンスタッフ（Co.含む）：2名 ※欠席者2名に対して、後日フォローアップを実施。1名は辞退。

② 「さいたまマラソン」当日

活動日時	2024年2月12日（月・祝）8：45-17：00
場 所	原山・中尾ブロック 35km給水所

実施目的	(1) 「立教大学チーム」としてボランティア参加する機会を設けることで、より多くの学生がボランティア活動への参加の一步を踏み出せるようにすること。 (2) スポーツボランティア活動を通して、スポーツがもつ価値や課題を実践的に学ぶこと。 (3) 大会の成功に貢献すること。
活動内容	35km給水所の運営
参加者	学生：16名 ※5名欠席／ボラセンスタッフ (Co.含む)：2名

■「さいたまマラソン」について

2019年に開催された「第5回さいたま国際マラソン」以来、さいたま市で4年振りに開催されたフルマラソンの大会である。今回から市民マラソンの大会となり、「さいたまスーパーアリーナ」を発着点に、マラソン初級者から上級者、子どもも大人も、誰もがスポーツを楽しみ、誰もが参加できる大会として開催された。

■当日の様子

立教チームは「35km給水所」の運営を担当。「35km給水所」は、前方から「スポーツドリンクの配布」「水の配布」と補給エリアが分かれていたが、「スポーツドリンクの配布」を担当した。

活動場所に到着後、まずはテーブルの設置やドリンクの入った紙コップの準備などの設営から始めた。ランナー通過時にはドリンクの配布と補給を行いながらランナーにメッセージを送ったり、励ましの声をかけたりしながらゴールに向かうラストスパートの後押しをした。



当日の様子をボラセン公式noteで公開中！

右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。



(4) 「東京マラソン2024 (主催：一般財団法人 東京マラソン財団)」

① 募集説明会

実施日時	① 2023年12月21日 (木) 17:20-18:00、②2024年1月9日 (火) 17:20-18:00、 ③1月10日 (水) 12:40-13:15
場 所	①新座キャンパス N223教室&オンライン、②池袋キャンパス 5124教室&オンライン、 ③新座キャンパス N223教室&オンライン
内 容	(1) 募集要項の配布 (2) 募集内容や申込み方法についての説明
当選人数 (定員)	チームエントリーの末、立教大学チームの枠として【50名分】が当選した。 この内、リーダー・サポーター (昨年度の参加者から募集) の4名、ボランティアセンター スタッフ (Co.含む) の3名を除いた【43名】を一般募集枠として設定した。
参加者	① 33名／② 23名／③ 50名…合計105名 ※申込者総数：164名

② 事前説明会

実施日時	2024年3月2日 (土) 13:00-15:00
場 所	池袋キャンパス M302教室
内 容	(1) 当日使用物品の配付 (2) 全体：給水所運営の活動内容や当日の動きについての説明 (3) チーム別：アイスブレイク、当日の動きの最終確認
参加者	学生：45名 ※2名欠席／ボラセンスタッフ (Co.含む)：3名

③ 「東京マラソン2024」当日

活動日時	2024年3月3日（日）8：55-16：30
場 所	40km給水所（都営三田線内幸町駅周辺）
実施目的	(1) 「立教大学チーム」としてボランティア参加する機会を設けることで、より多くの学生がボランティア活動への参加の一步を踏み出せるようにすること。 (2) スポーツボランティア活動を通して、スポーツがもつ価値や課題を実践的に学ぶこと。 (3) 大会の成功に貢献すること。
活動内容	40km給水所での水・スポーツドリンクの配布
参加者	学生：45名 ※2名欠席／ボラセンスタッフ（Co.含む）：3名

■ 「東京マラソン」について

東京マラソンは、アボット・ワールドマラソンメジャーズ（AbbottWMM）という世界で最も名高く大規模な6つのマラソン大会（東京、ボストン、ロンドン、ベルリン、シカゴ、ニューヨークシティマラソン）の1つ。エリートランナーは、これらの大会でポイントの獲得を目指す。

また、6大会全てを完走したランナー（Six Star Finisher）には、その素晴らしい功績を称え、各大会での記録が入った名前入りの完走証が発行されるため、世界中からマラソン愛好家も集まる。

■ 当日の様子

フルマラソンコースにおける最後の給水所である「40km給水所」の運営を担当。2班（26人・24人）に分かれて、それぞれ給水所の設営・水の配布・撤去作業を行った。気温が高かったため給水のニーズが高まり、例年以上に忙しい時間が長かったように思われるが、その分やりがいを感じられたと話す学生も多かった。

今回は昨年度の経験者4名がリーダー・サポーターとして活動したことで、学生同士のコミュニケーションも活発になり、互いにサポートし合う場面が増えた。次年度以降も参加学生がリピーターとなり、新たに参加する学生をサポートするなど、その関わり方を変えていくことを期待したい。

■ 参加した学生の振り返りから（原文ママ）

- 今回の活動はこちらがなにか考えながら動いて助ける、というような活動というよりは、水を用意してランナーが取りに来るのを待つ、というスタイルだったので、やりがいはあるのかな、と考えていましたが、「ありがとう」という言葉を貰ったり、給水後に少し元気になってまた走っていくランナーの姿を見ていると、40kmも辛い中走ってきた人達の想いを感じて、今回参加して良かったと感じました。今年は外国人ランナーが多いと事前に聞いていましたが、見てもやはり外国人ランナーが多いこと、またその出身国が多様であることに驚きました。外国人ランナーがカタコトでも「ありがとう」と日本語で感謝を伝えてくれる場面にも多く出会い、日本での素敵な思い出の1つに自分も参加出来ていたらいいなと思いながら活動していました。

〈異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科 2年〉

- ボランティアは、目の前の人をサポートしたり、困り事を解決したりして喜んでもらう活動というイメージがありました。今回の活動を通して変わったことは、それに加えてチームで協力して目的を果たすことの達成感を感じたことです。これまで関わりのなかった人と交流することができ、自分の経験の幅も広がったと感じます。

〈観光学部 観光学科 3年〉



2. 一貫連携教育・立教学院清里環境ボランティアキャンプ

『一貫連携教育・立教学院清里環境ボランティアキャンプ』は、立教学院の一貫連携教育の目標の一つである「共に生きる力を育てる」をテーマに、現地での活動を通じて、①自然から学び、自然と共に生きる方法を学ぶこと、②環境問題に関心を寄せ、その環境を守るために力を合わせることに、③年齢や学校が違う参加者が共に参加して理解を深め合うことを目指すプログラムである。大学生はキャンプリーダーを担う。

コロナ禍の影響で2022年度までは中止していたが、2023年度に4年ぶりに開催した。

(1) 事前学習

実施日	①2023年5月29日(月)、②6月13日(火)、③6月29日(木)、④8月4日(金)
場所	①池袋キャンパス 5号館 第一会議室、②③④池袋キャンパス 5号館 5209教室
実施目的	<ul style="list-style-type: none">・キャンプの目的とキャンプリーダーの役割を知る。・キャンプリーダー、スタッフが互いに知り合い、チームワークを深める。・児童と接した体験をふりかえり、キャンプリーダーとしての関わり方を考える。・立教と清里、キープ協会とのつながりを理解する。・活動フィールド及び環境ボランティア活動での役割を理解する。
内容	立教小学校教諭や大学チャプレン、キープ協会のレンジャー等の講義を通じて、一貫連携教育の意義、キャンプのねらい及びキャンプリーダーの役割について学んだ。小学生・中学生・高校生の行動・心理を理解した上で、キャンプ当日の「アイスブレイク」「目標づくり」「レクリエーション」等を大学生が考案し、実施のための準備を進めた。

(2) 当日

実施日	2023年8月17日(木)～19日(土)
場所	山梨県北杜市高根町清里 公益財団法人キープ協会
内容	<p>小学校から大学までの児童・生徒・学生・教職員、総勢75名が清里の地に集い、ボランティアキャンプのスタート以来、活動の柱としてきた環境整備に関わるボランティア活動を行った。4年ぶりの開催となった今年度、立教学院に託された環境ボランティアは【自然歩道(カラマツ林の小径)の整備】で、比較的平坦な森を歩きながら自然観察を楽しむ人気のコースだが、雨によるぬかるみ等で整備が必要な場所があり、利用者が安全に歩けるようにするために、参加者全員で力を合わせて作業に取り組んだ。</p> <p>初日にグループごとにキャンプ中の目標を話し合い、模造紙にまとめて発表し、最終日は、この目標をもとに3日間を振り返り、お互いの成果を発表しあった。雨天の予報により、プログラムの順序は一部変更が生じたが、予定していたフィールド散策、星空観察やレクリエーション等、最終的にはすべて実施し、異年齢間での楽しく有意義な交流の時間を持つことができた。</p>

当日の様子をボラセン公式noteで公開中！

右の二次元バーコードを読み取り、

記事をご覧ください。



(3) 事後学習

実施日	2023年9月26日(火)
場所	池袋キャンパス 5号館 第一会議室
実施目的	<ul style="list-style-type: none">・キャンプを通して学んだことや気づいたことをふりかえる。・キャンプの運営面での改善点や提案事項等について、意見交換を行う。・ボランティアセンターからの協力依頼事項を共有した。
内容	<p>今回のキャンプを通して学んだことや気づいたことをふりかえるとともに、次年度以降のキャンプをより良いものにするためにはどうしたらよいかという視点から、運営・研修等に関して率直な感想や忌憚のない意見を出しあった。順番に全体の気づきや学びについて共有する中で、目的を明確にして物事に取り組むこと、また、子どもではなく、一人の人間として個性を大切に一人ひとりと向き合うことの大切さを学んだという意見が共通していた。小学生の頃からの参加者が大学生でキャンプリーダーとして参加することで、新たな気づきもあり、一貫連携教育の成果や立教学院の教育理念(共に生きる力)を体感・実践できる場となっている。</p> <p>準備したプログラム内容や運営、生活面での課題は、学生および教職員の間でも共有し丁寧に改善することで、今後もよりよいキャンプにしていくことを確認した。</p>



3. 農業体験 in 山形県高畠町

『農業体験 in 山形県高畠町』は、「有機農業」の現場での体験や現地の方々との交流を通して、「環境」「生命」「食」のあり方を知り、自分の生き方や社会のあり方について考えるプログラムである。立教大学は、授業や正課教育（キャンパスでの学び）と同時に正課外教育（フィールドでの学び）の機会を重視しており、この農業体験も1989年に立教大学学生部が上和田有機米生産組合のご協力を得て実施したプログラム学生部セミナー『環境と生命』が端緒となっている。

学生が「キャンパスでの学び」と「フィールドでの学び」を行き来することにより、人間的成長が図られ、良き市民を社会に送り出すとの思いが根底にあるが、コロナ禍の影響で2022年度までは中止となっていた。

4年ぶりに開催した2023年度「農業体験in 山形県高畠町」には、学生15名、スタッフ3名が参加。学内での事前学習会を経て、山形県高畠町での援農活動を実施。その後、学内に再び集まり、事後学習会を行った。

(1) 募集説明会

実施日時	① 2023年6月7日（水）12：40-13：10、②6月9日（金）12：40-13：10
場 所	①新座キャンパス N234教室、②池袋キャンパス 5124教室
内 容	1. 募集要項の配布 2. 募集内容や申込み方法についての説明
参加者	① 11名、②45名

最終的に28名の学生から申し込みがあり、選考を経て参加者15名が決定した。

(2) 現地下見及び打合せ

実施日	2023年6月15日（木）～16日（金）
場 所	山形県東置賜郡高畠町（上和田有機米生産組合、高畠町役場、ゆうきの里・さんさんなど）
内 容	「農業体験 in 山形県高畠町」の実施に向けた打合せや調整・確認など。

(3) 事前学習会

実施日時	第一回：2023年7月15日（土）13：00-16：00、第二回：8月23日（水）13：00-16：00	
場 所	池袋キャンパス 5号館 第一・二会議室	
内 容	第一回	1. チェックイン 2. チームビルディング『より高く伸ばせ！ペーパータワー』 3. グループワーク「学習テーマを設定する（問いを獲得する）」 4. 感謝交流会に関する役割分担 5. チェックアウト
	第二回	1. チェックイン 2. グループワークの中間発表 3. 感謝交流会の準備・情報共有 4. プログラムについての最終確認 5. チェックアウト

参加者	①学生：15名／農業体験スタッフ（Co.含む）：3名 ②学生：13名／農業体験スタッフ（Co.含む）：3名
-----	--

当日の様子をボラセン公式noteで公開中！
右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。



(4) 「農業体験 in山形県高島町」本番

活動期間	2024年9月5日（火）～9日（土）
活動場所	和田民俗資料館・楽集館 及び 各援農先
宿泊場所	ゆうきの里・さんさん
参加者	学生：15名／農業体験スタッフ（Co.含む）：3名

■ 援農活動

9月5日（火）に高島駅到着後、上和田有機米生産組合員の皆さまの出迎えを受け、その足でグループごとに援農活動を行った。翌日6日（水）～8日（金）も組合員の方々のご指導のもと、農作業に従事した。

活動日	受け入れ（援農）先の方々
9/5	青野 正幸さん、鈴木 重和さん、高橋 隆浩さん、皆川 直之さん
9/6	青野 正幸さん、後藤 輝彦さん、鈴木 重和さん、皆川 直之さん、組合事務所の方々
9/7	石田 克さん、菊地 卓大さん、高橋 隆浩さん、戸田 雄市さん、皆川 直之さん、渡部 京一さん
9/8	菊地 卓大さん、後藤 輝彦さん、鈴木 重和さん、星 航希さん、渡部 五郎さん、渡部 宗雄さん

■ 交流会・講話

農業体験期間中の夕食後や最終日の昼に、多くの方々をお招きして、それぞれの視点から「高島」「農業」「ご自身の生き方」等についてお話を伺いながら交流させていただいた。

実施日	受け入れ（援農）先の方々
9/5	上和田有機米生産組合 渡部京一組合長
9/6	高島在住の立教大学卒業生の方々（安部友子さん、島崎慎一さん、丸山信輔さん、渡部圭子さん）
9/7	上和田有機米生産組合 青年部の方々 （青野正幸さん、高橋隆浩さん、後藤輝彦さん、二宮隆憲さん、星航希さん、皆川直之さん、渡部京平さん、渡部諭さん）
9/8	感謝交流会（お世話になった皆様）
9/9	高島町 高梨忠博町長、上和田有機米生産組合 渡部宗雄相談役

■ 高島での生活

今夏は酷暑が続き、熱中症も心配されたが、時に雷雨に見舞われながらも比較的過ごしやすい気温の中で活動することができた。学生たちは、寝食をともにすることで今回の農業体験で初めて出会ったとは思えないほど、それぞれの関係が深くなっていき、学年関係なく、互いの得意なこと・苦手なことを理解しながらフォローし合っている様子も、朝夕の食事準備・片付け、振り返りや発表の準備など、様々なところで見られた。毎日の振り返りの時間の中では、自分が取り組んだこと、そこで感じたこと、お聞きしたことなど、整理しきれないほどの学びと気づきを通して自分に向き合うことができ、日増しに表情が逞しくなっていた。

■発表会・感謝交流会

9月8日（金）の夕方から夜にかけては、学生たちが援農活動や交流会などを通して学んだこと・感じたことなどをお世話になった方々に伝える「発表会」、そしてお世話になった方々への感謝をお伝えするために手作りの料理でおもてなしをする「感謝交流会」を開催した。

感謝交流会の最後には、学生たちが隠れて練習してきた「カントリーロード」の合唱・合奏を披露。アンコールをいただき、2回目は交流会参加者全員でカントリーロードを熱唱した。

当日の様子をボラセン公式noteで公開中！

右の二次元バーコードを読み取り、
記事をご覧ください。



(5) 事後学習会

実施日時	2023年9月15日（金）13：00-16：00
場 所	池袋キャンパス 5号館 5401教室
内 容	1. 振り返り集の配布 2. それぞれの体験の共有 3. とともに過ごしたメンバーへのメッセージの共有 4. 今後の活動（ホームカミングデー、横浜市栄区民まつり）についての確認
参加者	学生：15名／農業体験スタッフ（Co.含む）：3名

(6) 立教大学ホームカミングデーへの出店 ※有志メンバーによる活動

実施日時	2023年10月15日（日）9：00-17：00
場 所	池袋キャンパス
内 容	「上和田米の新米（玄米・五分搗き米・白米）」「りんごジュース」「アップルキャロットジュース」の販売
参加者	学生：7名／農業体験スタッフ（Co.含む）：3名

農業体験の参加者有志が出店した立教大学ホームカミングデーでは、「上和田米」の新米（玄米・五分搗き米・白米）と、「りんごジュース」「アップルキャロットジュース」の販売を行った。

雨が強く降っていた午前中は来場者自体が少なかったが、昼過ぎから次第に晴れ間が見え、来場者も増えていった。「上和田有機米生産組合」からお借りした法被を身に纏い、自分たちが作成したチラシの配布や宣伝、テント内での商品販売などに取り組んだ結果、教職員への販売も含めて無事全商品が完売した。

(7) 横浜市栄区民まつりへの参加 ※有志メンバーによる活動

実施日時	2023年11月4日（土）13：00-15：00
場 所	横浜市立本郷中学校
内 容	高島町の出店（宣伝・商品の販売等）のサポート
参加者	学生：7名／農業体験スタッフ：1名

